

廻れば大門の見返り柳いと長

けれど、お齒ぐる溝に燈火うつ

る三階の騒ぎも手に取る如く、

明けくれなしの車の行来にはか

り知られぬ全盛をうらなひて、

MEMO

「たけくらべ」 樋口一葉

生活に苦しみながら、「たけくらべ」「にごりえ」「十三夜」といった秀作を発表、文壇から絶賛される。わずか一年半でこれらの作品を送ったが、二十四歳六ヶ月で肺結核により死去。